

鎌倉市市庁舎現在地利活用基本計画（素案）意見公募手続（パブリックコメント） 参考Q&A

意見公募手続期間に合わせ実施した説明会「みんなで話そう、みんなの鎌倉庁舎－鎌倉市市庁舎現在地利活用基本計画（素案）パブリックコメント説明会－」でいただいた主な質問についてまとめました。意見提出の参考としてご覧ください。

	該当箇所	質問	回答
1	P.1	鎌倉生涯学習センター（きらら鎌倉）がなくなると聞きましたが本当でしょうか？	鎌倉生涯学習センターや中央図書館等の各機能は、市庁舎現在地に新たに整備する複合施設の完成に合わせ引っ越すことを想定しています。新施設の完成前に各機能がなくなるとは現時点では想定しておりませんのでご安心ください。
2	P.1	本施設のオープンまで10年以上かかる中、その前に中央図書館や鎌倉生涯学習センター等がなくなってしまうと利用できない期間ができてしまうことになりませんが、その点は大丈夫でしょうか。	
3	P.22	民間機能はどのようなものを想定していますか。	P.22に記載のとおり、民間機能の導入に当たっては、周辺地域との関係や公共機能との親和性、防災を含めたまちづくりにとともに取り組む意欲など、まちや地域の価値を高めていくといった理念（パブリックマインド）を持った民間事業者との連携を目指していきます。図表2-4に民間機能の例を示しておりますので、参考にご覧ください。なお、例として示したものであり、導入を確定したものではありませんのでご留意ください。
4	P.36	新しい複合施設では、現在の鎌倉生涯学習センターより面積が少なくなってしまうのでしょうか。	P.36に各機能の規模を整理しています。鎌倉生涯学習センターの機能については現在の規模を参考に同程度の面積を確保しておりますのでご安心ください。
5	P.36	新しい複合施設に、現在の鎌倉生涯学習センターの機能が全て入らないのではと心配ですが大丈夫でしょうか。	
6	P.36	現在の市役所の場所は狭く感じるのですが、面積が足りないのではないのでしょうか？	P.35、P.36に記載のとおり、市庁舎現在地に建設可能な施設の最大規模約14,100㎡に対し、本基本計画（素案）では公共機能の規模として約8,390㎡を想定しており、面積的には余裕を持っています。余剰面積の範囲で公共機能との親和性などを考慮し民間機能の導入も検討していきますが、その際にも公共機能として必要なスペースの確保を最優先として考えてまいります。
7	P.36	沢山の機能を複合化すると手狭になってしまわないのでしょうか？	
8	P.36	図書や資料をデータ化し原本は別の場所で保管することで、面積の有効活用ができるのではないのでしょうか。	紙資料で閲覧していただくことは、教育や子育て等の面でも引き続き重要と捉えております。今後の社会情勢等を考慮するとともに、図書や資料の保存については市内図書館全館のバランスも考慮しながら引き続き検討してまいります。
9	P.36	行政機能について、現在の基本計画（素案）で示されている面積で足りるのでしょうか。	P.36に記載のとおり、行政手続・相談を含め、市民の日常生活を支えるためのスペースとして約530㎡（備蓄倉庫、歴史的公文書書庫を含む）を想定しています。これは過去の実績から想定される手続・相談件数を基に算出しております。今後DXの推進等も見据え、来庁者が6割程度になると見込んでおり、ワンストップサービスにより、丁寧に安心いただける行政サービスを提供してまいります。
10	P.37	P.37で床の積載荷重について触れていますが、床の積載荷重を高めるとその分コストはかかるのでしょうか。	P.41に記載のとおり、既存施設を活用する場合には、改修、増築等の費用のほか図書館として使用するための床荷重増加への対応工事費等が必要となることが想定されます。
11	P.41	P.41には工事費約136億と記載がありますが、概要版では整備費約139.6億円と記載されています。この違いについて教えてください。	P.41に記載した工事費約136億円は、仮に従来型の手法で建設工事及び既存建物解体工事を発注した場合の費用（P.78の図表5-13の建設工事費小計126.7億円及び既存建物解体工事費10.2億円を合算したもので、新築、既存施設活用について、いずれも従来型で実施した場合の費用を比較するために試算したものです。実際には従来型の場合、これに加えて設計・移転費等の16.2億円が加算されます。一方、概要版に記載した整備費約139.6億円は、官民連携事業を想定した本施設の整備費（同図表の官民連携事業の合計139.6億円）を示したものととなります。

12	P.44	P.44に埋蔵文化財についての記載がありますが、地下の文化財の扱いはどのようにする予定ですか。	P.44に記載のとおり、本敷地には御成小学校校地で発見された遺構に連なる埋蔵文化財が存在する可能性があります。今後、設計等が進み、工事等でこれらの埋蔵文化財に影響があると想定される場合には必要な調査を実施します。調査によって、貴重な遺跡が発見された場合、その保存を前提に検討してまいります。
13	P.45	津波が来た際に、10mの高さ制限がある建物で大丈夫でしょうか。	P.45に記載のとおり、津波浸水想定としては、建物敷地内の一部に該当する箇所がありますが、大部分については浸水が想定されておりません。また、P.66に記載のとおり、本施設では、機械室や備蓄倉庫を2階に配置するなど、万が一の浸水があった場合にも鎌倉地域の防災拠点として機能するよう整備してまいります。
14	P.50	駐車場はどの程度を想定していますか。	P.50に本基本計画（素案）の段階の駐車場の想定をまとめています。本施設のオープンまでは10年以上あり、設計段階において、関係課とも調整しながら検討してまいります。
15	P.51	P.51を見ると駐車場がかげ側にありますが、イエローゾーンにもかかっており、かがけ崩れがあると使えなくなるのではないですか。	P.51に本基本計画（素案）の段階の外部計画の考え方を示しています。本外部計画はモデルプラン同様に確定したものではないため、崖の状況等も考慮しながら今後設計の段階で適切な配置を検討してまいります。
16	P.55	P.55にホールは多目的に活用できることを考慮と記載がありますが、こういった利用を想定していますか。	現在と同様に音楽を始め、演劇や上映会、シンポジウムなど、様々な用途での利用を想定し、多目的な利用としております。
17	P.55	ホールについて、現在の鎌倉生涯学習センターと同程度の座席数や照明、音響、高さなどはどうなるのでしょうか。	詳細な検討は設計段階に入ってからとなりますが、特に音響に関しては、現在の鎌倉生涯学習センターのホールと同レベルを維持して欲しいというお声は多方からいただいております。多目的に活用できることを考慮し、平土間ホールを前提としますが、設計の専門家や関係団体に意見を聞くなどしながら検討を進めてまいります。
18	P.57	模型などを作ると市民にイメージがわきやすいのではないのでしょうか。	今後、設計の段階で、模型やVRを活用するなど市民の皆様イメージしやすい方法を検討してまいります。
19	P.60	建物の高さについては条例を緩和すればよいのではないのでしょうか。	これまでの経緯として、近隣の方々に対して10mの高さで制限してきた経過から、現時点では条例の範囲内を検討しているものです。
20	P.64	災害時に避難者対応の記載がありますが、どの程度の人を受け入れる想定でしょうか。	東日本大震災時には市役所で約600人、その他鎌倉地域で約400人の一時避難者の受け入れたため、これらの状況も考慮し、検討してまいります。
21	P.66	災害時の避難者対応などは民間エリアも含めて行う想定でしょうか。	P.66に記載のとおり、民間機能との災害連携協定（帰宅困難者対応など）を締結するなど、施設全体で災害対応できるよう整備してまいります。また、災害時には広場なども緊急車両等の受入場所として使用することを想定しています。
22	P.82	民間を入れるのはコスト面のメリットも理由でしょうか。	民間機能の導入により本市財政負担の軽減にも寄与すると考えております。
23	P.84	ホール利用者など、施設の利用者との意見交換の場は今後もありますか。	基本計画策定後も意見交換等の機会を設けていくことを考えております。
24	その他	新しい複合施設の整備にあたって参考としている施設はありますか。	近隣では神奈川県大和市の複合施設「シリウス」や東京都武蔵野市の複合施設「武蔵野プレイス」などの複合施設を参考としております。